



至誠の泉

甲斐市立双葉中学校
学校だより
発行 校長 加藤 忍
令和7年度 3月号
2026. 3. 9

♪流れる季節の真ん中で～瞳を閉じればあなたが～ **皆さんの母校はここ双葉中**

♪もうすぐ今日が終わる やり残したことはないかい 親友と語りあったかい 燃えるような恋をしたかい 一生忘れない
ような出来事に出会えたかい かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい～(「オワリはじまり」かりゆし58楽曲♪)



教室では、卒業アルバムや生徒会誌がめくられ、記念DVDを持ち帰り、3年分の思い出を振りかえる日々になりました。(私の卒業生への想いは、卒業式で語ります。)

さて、卒業式翌日に公立高校合格発表を控えている受験生は落ち着かないかもしれません。結果がどうであれ、君たちの努力してきた過程は、色あせることはありません。精一杯考えて、精一杯悩み、精一杯努力してきたことと思います。たとえ望んだ結果でなくても、この経験を自分の人生に生かし、オンリーワンの生き方を追求して欲しいと思います。



先日、高校生の夢と未来を応援する広報誌『KANAU』（山日新聞発行）を手に取りました。若者の山梨離れに危機感を持ち、高校までの学びや培った体験をふるさと山梨のために生かしてほしいという願いから、県内企業の技術や働きがいのある職場を多く紹介している冊子です。中学生にもぜひ読んでほしい内容だと私は思いました。印象に残ったのは、写真に映っている若者たちがみんな輝いていたこと。出身高校や出身大学がどうのこうのでなく、やりがいや生きがいを見つけ、充実感で今を生きているということ。笑顔があるってこと。学歴なんて関係ない。大切なことは、その時その時に**自分らしく**「前」を向いているかどうか、夢を追い続けているかどうか、だと感じました。

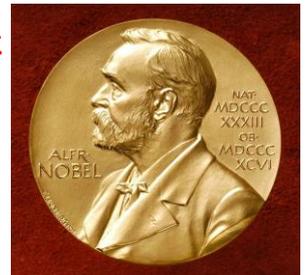
最後に、地元出身**大村博士の名言**を3つ贈ります。卒業生の前途に、幸多からんことを願っています。卒業おめでとう！！

2015年ノーベル生理学・医学賞 **大村智さん 北里大特別荣誉教授 (韮崎市出身)**

★「分かれ道に立った時は、**どちらが世のため人のためになるかを基準に考えてきた**」

★「やったことはだいたい失敗している。諦めたらそこで終わり。**続けた先に成功があるから**。1, 2回失敗したからといって、どうってことない」

★「研究の**原点は山梨だ**。自然の中、農作業を通じて科学する心が
養われた。良き友人や素晴らしい先生にもめぐり会えた」



3月11日に『**一唱・懸命**』うたう、**卒業生合唱曲「春はいま**」(作詞作曲 弓削田健介)

透明な翼ひろげ わたしたちは今 風に向かう いくつもの季節こえて たどりついた朝
あふれだす光に包まれて
春はいま 春はいま 私の胸にある 歩き出す新しい空 見上げて
夢を見る 夢を見る あなたと小さな喜びをわけあえる
あすの日 目を閉じればよみがえる 小さな手をあずけた めくもり
すれ違う日もあったけど あなたの笑顔に守られて 今日まで歩いてきた
春が来た 春が来た 僕らの空にきた 踏み出そう 新しい夢 信じて

さよならは さよならは 笑顔で歌おう 忘れないで どこにいてもつながってる
春はいま 春はいま 私の胸にある 歩き出す新しい空 見上げて
夢をいま 夢をいま あなたと始めよう 忘れないよ 輝く日々
その眼差し ありがとう **さよなら～ありがとう** ♪



【報告】双葉中 R7応援団の活動 (学校運営協議会の資料から抜粋)

1. 設置目的と今年の基本方針

学校応援団の立ち上げ1年目として、「地域とともにある学校」を目指し、できることから活動を開始しました。学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の取組として、地域住民の参画を促し、子どもたちの学びと育ちを学校・家庭・地域が一体となって支える体制の土台作りを行いました。

2. 年間活動実績 本年度は延べ60名強の地域の方々にご協力いただきました。

実施月	活動内容	参加人数・状況
4月	地区回覧板での周知・ボランティア募集	啓発チラシを全戸配布(周知)
5月	登録受付完了	地域住民27名、保護者全員登録
6月	サンクスレター(メール・ハガキ)送付	活動への意欲向上を図る
7月	夏休み学習会(3日間)	延べ8名が学習支援講師として参加
9月	PTA奉仕作業・学園祭テント設営	延べ16名が環境整備・行事支援に参加
10月	家庭科「着付け体験」授業支援(写真)	延べ25名の講師派遣(専門性の活用)
11月	あいさつ運動	地域住民13名のあいさつ運動
1月	アンケート実施	次年度に向けた評価と課題の抽出



3. 活動の成果(アンケート結果より)

① 「地域」の枠を超えた広域的な参画

すでに西小地区は応援団活動が盛んですが、アンケートでは「東小地区の方も多く参加しており、学校への関心の高さを感じた」との声があり、学区全体を巻き込んだ活動へと発展しました。

② 教育活動の質の向上とボランティアの自己有用感

専門的な授業支援や学習会により、個別支援が充実しました。また、参加者からも「自分自身にとって良い経験になった」「子供たちと一緒に活動できて嬉しい」といった声が寄せられ、大人側の満足度も高い結果となりました。

③ 「顔の見える関係」の構築

27名の登録住民が「学校を応援する」という意思を持って学園祭や奉仕作業を通じた多世代交流が活発化しました。

4. 令和8年度のイメージ

次の2点を視野に入れていきます。学校のニーズにあわせながら、無理をしない活動とします。

① 図書・園芸活動の定例化

読み聞かせや花壇手入れを計画に組み込めるかどうか。日常的な交流を今後増やしたい。

② 教職員ニーズと地域善意の最適マッチング

年度はじめに教員側の支援希望内容をリスト化し、焦点を絞って応援団に依頼する。

学校応援団登録はこちら



◎表彰紹介

【山梨県剣道連盟 中学校会長賞】双葉中3年 男子 Hさん 女子 Hさん

【山梨県野球連盟 中学生優秀選手賞】双葉中3年 Sさん

【山梨県陸上競技協会 功績賞】双葉中3年

Oさん、Kさん、Gさん、Iさん、Oさん、Fさん、Mさん、Mさん、Iさん、Nさん、Fさん

【第25回全国中学生創造ものづくり教育フェア 生徒作品コンクール】

全国工業高等学校長協会理事長賞 3年 Kさん

双葉中 HPIはこちら

